

## 各室諸元表

室名	用途・要求機能	要求面積の目安 又は【収容人数の目安】	
展示エリア		3,400㎡程度	
展示室共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にホワイトキューブ空間とする。</li> <li>・展示照明は基本的に天井からの配光とする。</li> <li>・各展示室に展覧会ごとに構成が変わる空間に対応できる可動壁（厚さ：160mm程度）を設ける。</li> <li>・展示観覧中に休憩できる展示ロビーを設ける。</li> <li>・収蔵品の展示に対応した床の耐荷重とする。</li> <li>・洪水による浸水に対する保護のため、GL+3.0m以上の位置に設ける。</li> <li>・収蔵庫と同等の温湿度管理ができる設備を備える。</li> <li>・消火設備は不活性ガスによる消火とする。</li> </ul>	展示ロビー：適宜	
企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高6.0m</li> <li>・30mの壁付展示ケースを設置する（使わない場合は可動壁で隠すことができる仕様とする）。</li> <li>・2室に分けて使用する場合がある。</li> <li>・「コレクション展示室（テーマ）」を企画展示室として一体で使用する場合がある。</li> </ul>	1200㎡程度	
コレクション展示室	（テーマ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高6.0m</li> <li>・大型作品（最大でW11.5m×H4.8m）を展示できる壁面を確保する。</li> <li>・企画展示室として一体で使用する場合がある。</li> </ul>	500㎡程度
	（日本近代）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高4.5m</li> <li>・30mの壁付展示ケースを設置する（使わない場合は可動壁で隠すことができる仕様とする）。</li> </ul>	450㎡程度
	（デザイン） （西洋近代） （現代）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高4.5m</li> <li>・デザイン・西洋近代・現代の仕切りは可動壁とし、展覧会ごとに構成を柔軟に変更できる仕様とする。</li> </ul>	750㎡程度
	（グタイピナコテカルーム）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天井高4.5m</li> <li>・「グタイピナコテカ」を想起させる内装や仕上げとする。</li> <li>・なお、模様替えを考慮し、改装工事のしやすい造作とする。</li> <li>・コレクション展示室全体の出入口に近接し、グタイピナコテカルームへ直接アクセスが可能（他の展示室を通らずに）となるよう配置する。</li> </ul>	300㎡程度
コミュニケーションエリア		2,100㎡程度	
パッサージュ （誰でも気軽に自由に訪れることのできるオープンな屋内空間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントランスホールとしての機能も確保する。</li> <li>・各種イベントの開催に活用できる空間とする。（大型作品を展示する場合がある。）</li> </ul>	1,000㎡程度	
講堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会、コンサート、落語、演劇、作品展示など多目的に利用する。</li> <li>・パッサージュに隣接させる。</li> <li>・平土間による空間構成とし、プロセニウムアーチは設置しない。</li> <li>・楽屋（2～3人程度）2部屋、ホワイエを設ける。</li> <li>・4tトラックが寄りつける搬入口を設ける。</li> </ul>	500㎡程度 【250～300人程度の収容人数】	
研修室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ワークショップの開催、団体利用客の集合や休憩場所、アーティストの公開制作等に利用する。</li> <li>・パッサージュに隣接させる。</li> <li>・研修室内に準備室兼控室を設ける。</li> </ul>	130㎡程度 【40人～50人程度の収容人数】	
キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児とその保護者が、安全で快適にくつろいだり遊んだりして過ごせる場所とする。</li> <li>・パッサージュに隣接させる。</li> <li>・トイレに近く、分かりやすい場所に設ける。</li> </ul>	100㎡程度	
ボランティア控室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアスタッフの控室及び打合せ室（計2室）。</li> </ul>	【各室10人程度の収容人数】	
図書室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約10万冊の書籍を保管できる閉架式書庫（250㎡程度）及び閲覧室（80㎡程度）を設ける。</li> <li>・貴重資料保管庫に近接させる。</li> <li>・洪水による浸水に対する収蔵図書の保護のため、GL+3.0m以上の位置に設ける。</li> </ul>	330㎡程度	

室名	用途・要求機能	要求面積の目安 又は【収容人数の目安】	
保存研究エリア		2,500㎡程度	
収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサイズや形状の近現代美術作品（油彩画、日本画、版画、素描、写真、立体作品、家具作品、ポスター等）を収蔵する。</li> <li>・作品素材による保存環境の違いに配慮し、3室に分割して設ける。（収蔵庫1、収蔵庫2、収蔵庫3）</li> <li>・収蔵庫1または収蔵庫2の室内には、金属彫刻等の保管に適した低湿度収蔵庫を100㎡設ける。</li> <li>・洪水による浸水に対する美術品の保護のため、GL+3.0m以上の位置に設ける。</li> <li>・温湿度環境は温度21.5℃±1.5℃、湿度52.5%±2.5%（低湿度収蔵庫は35%±2.5%）を基本とする。</li> <li>・内壁と躯体との間に空気層を設けた二重壁構造とする。</li> <li>・天井高さは4.5m程度とする。</li> <li>・消火設備は不活性ガスによる消火とする。</li> <li>・各収蔵庫につながる前室（大型作品の写真撮影にも利用）を設ける。</li> <li>・絵画ラック等の収蔵用備品を設ける。</li> </ul>	2,150㎡程度 〔収蔵庫1：750㎡程度 収蔵庫2：750㎡程度 収蔵庫3：500㎡程度 前室：150㎡程度〕	
調査研究室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2室設ける。（内、1室は直射日光を遮り、自然光を確保する）</li> </ul>	合計100㎡程度	
一時保管庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展用の美術品やクレート等を一時的に保管する。</li> <li>・洪水による浸水に対する保護のため、GL+3.0m以上の位置に設ける。</li> <li>・収蔵庫と同等の温湿度管理ができる設備を備える。（二重壁構造は不要）</li> <li>・2室設ける</li> <li>・消火設備は不活性ガスによる消火とする。</li> </ul>	合計250㎡程度	
管理エリア		5,300㎡程度	
事務室関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室、館長室、応接室、更衣室、会議室、展覧会準備室、研究資料室（3室）を設ける。</li> <li>・事務室内には、打合せスペース（12人・8人・4人程度の3箇所）を配置する。</li> </ul>	事務室：【30人程度】 会議室：【口の字で25名程度着席可能】 展覧会準備室：50㎡程度 研究資料室：各室40㎡程度 その他の室：適宜	
展示作業室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室のバックスペース。</li> <li>・荷物用エレベーターホールと共用可能とする。</li> <li>・展示作業室用倉庫（100㎡程度）を設ける。</li> </ul>	300㎡程度	
展覧会用倉庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会で借用した美術品の空クレート（木箱）等を一時的に保管する。</li> </ul>	50㎡程度	
貴重資料保管庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵作品に関連する貴重資料を保管する。</li> <li>・洪水による浸水に対する保護のため、GL+3.0m以上の位置に設ける。</li> <li>・収蔵庫と同等の温湿度管理ができる設備を備える。（二重壁構造は不要）</li> <li>・書庫（閉架式）に近接させる。</li> <li>・消火設備は不活性ガスによる消火とする。</li> </ul>	300㎡程度	
トラックヤード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11tウイング車（L12,000×W2,500×H3,800）2台が横に並び駐車した状態で、2台同時にウイングを上げられる広さ（間口、奥行き、有効天井高さ）を確保する。</li> </ul>	200㎡程度	
荷解室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラックヤードへの搬出入時に作品を集約する。</li> <li>・トラックヤードとの段差は+900mm程度とする。</li> <li>・テーブルリフト（3,000mm×3,000mm程度）を設ける。</li> </ul>	150㎡程度	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警備員室、中央監視盤室、清掃員控室、清掃用具倉庫、屋外用倉庫、荷解室用倉庫、給湯室、印刷室、救護室を設ける。</li> <li>・監視員控室を事務室及び展示室と同一階それぞれに設ける。</li> </ul>	警備員室及び清掃員控室：【5人程度】 監視員控室：【各室10人程度】 その他の室：適宜	
エレベーター	荷物用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かご内寸法H3,800mm以上×W4,500mm以上×D5,200mm以上。</li> </ul>	適宜
	管理エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20人乗り以上×1台を設ける。</li> <li>・人貨共用とする。</li> </ul>	適宜

室名	用途・要求機能	要求面積の目安 又は【収容人数の目安】
共用エリア		
展示ホール	・展示ホール内には、企画展示室出口側に、企画展開催時の臨時物販スペース（200㎡程度）及び同倉庫（30㎡程度）を設ける。	適宜
企画展主催者控室	・企画展開催時における主催者の控室。 ・展示ホールの企画展示室側に設ける。	30㎡程度
来館者用エレベーター	・来館者用エレベーターは、最大で8,000人/日の来館者があることを想定して、必要台数を確保する。	適宜
サービス施設 (美術館と同一棟、別棟については問わないが、同一棟とする場合は、火気厳禁とし収蔵庫および展示室と同一階となることを避ける。)		
サービス施設共通	・美術館閉館時（夜間、休館日）の営業も可能となるように計画する。	サービス施設全体の面積：500～1,000㎡
飲食部門	・カフェ、レストラン等	適宜
物販部門	・ミュージアムショップ等	適宜
外構・その他		
広場	・イベント等の開催に対応できる広場とする。	適宜
車寄せ	・乗用車やタクシーだけでなく、観光バス等の大型車両が利用できること。	適宜
駐車場	・来館者用駐車場及び管理用駐車場を設置する。 （いずれも普通車を想定） ・自走式とする ・美術館の屋内外は問わない。	来館者用：80台程度 管理用：2台
駐輪場	・来館者用の駐輪場を設置する。 ・美術館の屋内外は問わない。	適宜 (附置義務台数を確保)